

在宅看護論実習～自宅実習中のZoom学習

<在宅療養中のリスクマネジメント>



転倒



徘徊



誤嚥

1. 在宅療養中のリスクとは医療ケアのトラブルである。

答（YES・NO）

2. 訪問看護がマネジメントするリスクは訪問看護中の事故や合併症の発症、医療機器のトラブルである。

答（YES・NO）

3. リスクマネジメントの目標はリスクの発生を無くす事である。

答（YES・NO）

4. 災害時の対処は地方自治体の管轄のため、療養者個々の対応は地域包括支援センターに相談するよう指導する。

答（YES・NO）

5. 認知症高齢者や発達障害、精神疾患の療養者では、消費者被害のリスクがあり、被害時は地域包括支援センターに相談する。
答（YES・NO）
6. 胃ろうチューブ抜去時はろう孔が塞がらないよう、一時的にチューブを挿入しておく。
答（YES・NO）
7. 中心静脈栄養のルート内に空気が混入したら、早期の流出を促すために点滴速度を早める。
答（YES・NO）
8. 中心静脈栄養の滴下スピードの誤りでは、高血糖や低血糖への対処が求められる。
答（YES・NO）

9. 介護疲労の可能性がある時はレスパイトケアとして、ショートステイの提案もリスクマネジメントである。 答（YES・NO）
10. 在宅酸素療法中、酸素濃縮器が故障したら訪問看護ステーションに連絡後、安静にして待つよう指導した。 答（YES・NO）
11. 在宅酸素療法中は、酸素濃縮器が故障した時のためにバックバルブマスクを準備する。 答（YES・NO）
12. 在宅酸素療法中のCOPD療養者では、誤って高流量の酸素を吸入すると低酸素血症の恐れがある。 答（YES・NO）

13. 気管切開での在宅人工呼吸療法にファイティングが起こったら、至急在宅医か訪問看護師に連絡して指示を待つ。

答（YES・NO）

14. 気管切開での在宅人工呼吸療法中に停電が起こったら、すぐにバックバルブマスクで補助呼吸を行う。 答（YES・NO）

15. N P P Vで自発呼吸と同調せずアラームが鳴ったら、酸素流量を増やす。 答（YES・NO）

16. N P P Vでマスクがずれてアラームが鳴ったら、酸素量を増やす。 答（YES・NO）

17. 在宅酸素や電動式痰吸引器を使用する療養者は、災害時
もより福祉避難所への避難が適切である。なぜか？

答（ ）

18. 人工呼吸器を使用していることをあらかじめ電力会社に
連絡しておくのはなぜか？

答（ ）

19. 災害時、停電で生命に直結する医療機器とは？

答（ ）（ ）

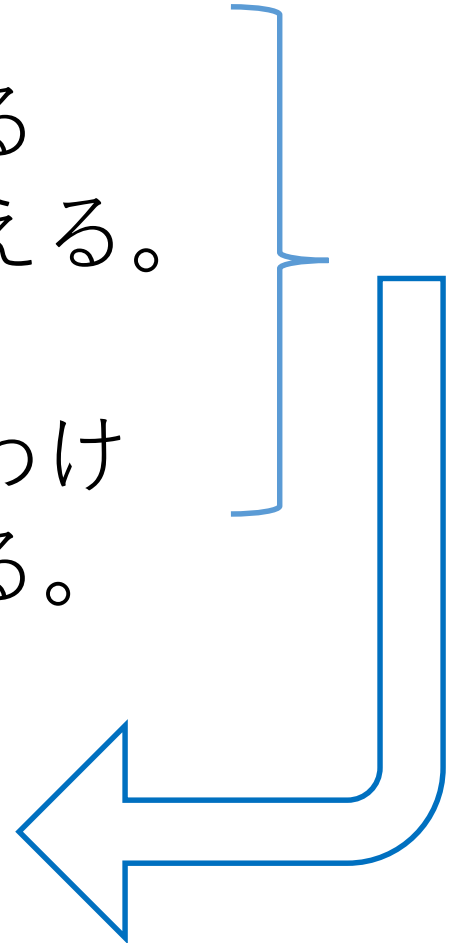
20. 災害時、停電で生命には直結しないが、病状に影響する
医療機器や介護用具とは？

答（ ）

～学習のポイント～

- ◎在宅療養でのリスクは、医療ケアに関する事だけではない。生活全体のリスクを考える。
- ◎近年は**消費者詐欺**に関するリスクもある。
- ◎トラブル時、いつも医療者が駆けつけるわけではない。誰がどう対処するか明確にする。

どの**サービス**に連絡し、
どう**対処**してもらおうか?!
地域の社会資源をうまく活用する。



起こらないよう準備するが、 リスクはなくなるらない！



器械は壊れる。
チューブは抜ける。
薬は忘れる、間違える！

事件・事故、災害対処も
準備が大事！

